

SHORT ESSAY

あれから3年!! ピースのお誕生日に思う

山崎 泰

Yasushi Yamazaki

やまざき・やすし 昭和13年東京生まれ、19年母の里・松山に疎開。松山で育ち松山南高等学校卒業後、麻布獣医科大学進学卒業後、県立道後動物園の獣医師となり26年間勤務。7代目園長となり歴史に残る動物大移動を企画実施。63年4月1日オープンした、とべ動物園の初代園長、平成10年えひめ子どもの城初代園長を兼務し、11年3月、35年5ヶ月の県職を退職。財団法人動物園協会名誉園長として、人と動物のふれあいに情熱を燃やし続けている。

野生動物の飼育したは乳類で、母親が育てた例の少ないホッキョクグマの赤ちゃん、ピースは昨年の十二月二日で、生まれてちょうど三年になった。六百八十グラムの仮死状態であったが、奇跡的に助かり、不思議とは思えないほどの成長を遂げ、現在二百五十キロにもなり、世界記録を更新中である。その生態から自然界での繁殖、子育てする条件は、厳しく困難である。出産間近の母親は、結氷積雪の穴にこもり、光と音、他の生物や餌が全くない条件で、寝たままほ乳育児を四ヶ月も続けるので、母親が育てた成功例も少ない。また、感染症に弱く、人が育てて生きた例も世界になく、参考データもなかったが、多くのマスメディアのお力で、全国的に人気の的、アイドルとなった。多難に出合い不安を持ち続けながら、常に同居、直接観察する時間を源に、不安を自信に置き換える努力を絶やさないことを、高市キーパーに頼み、助かり育つのを祈る気持ちで願い噛み締めた三ヶ年だった。

思えば、小学校四年生の時、動物

園の獣医師になりたいと志を立て、この道一筋、三十八年間、動物の生命を友とした泣き笑いの人生を得た。日本初の子育てに成功した十五種を含む百数十頭もの赤ちゃんを育て、退職の年には世界で誰にもない経験値を、キーパーの心温まる母心の結晶のおかげで楽しめた。私は、世界中で最も幸せな財産、宝物を賜ったことに心から感謝する。あと一年もすれば、ピースも性成熟し恋心を持つだろう。自分の大好きな雄を選び、我が子を宿し母心を知ってくれば、私たちの育てたピースが真の幸せを得たことになるのだが…。人が育てただけに、もしも恋も出来ず母心も持てないピースになってしまったら…。と大きな心配が残り、見守り通すまで生きないか…と思えて、大声でピースを呼んだ私だった。